

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

##### 《医療系》

#### ●大阪大学薬学研究科創成薬学専攻、応用医療薬科学専攻

##### 「創薬推進教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

創薬とイメージングにかかる講義2科目と実習1科目を新規に開講し、薬学研究科と医学系研究科保健学専攻の大学院生がともに履修できるように規程等を整備した。また、既存の12講義科目を両研究科・専攻の相互履修共通科目として設定した。両研究科・専攻にまたがる講義科目であるため、既存の開講科目との時間割調整が困難であった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

各新規開講科目はそれぞれ複数の教員が担当し、講義担当者は大学院だけでなく学部の講義も行っているため、両研究科・専攻にまたがった大幅な時間割変更ができなかった。そのため、一部の開講科目に受講者の偏りが生じた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

履修規程を改正し、受講科目を単位化できるようにした。また、開講時期を前期に移動させることにより、一定の効果を挙げることができた。

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

##### 《医療系》

##### ●大阪大学薬学研究科創成薬学専攻、応用医療薬科学専攻

##### 「創薬推進教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

最先端の研究を行っている国内の研究所(理研、医薬基盤研)でインターンシップを実施した。製薬企業等でのインターンシップを検討したが実施できなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

守秘事項との兼ね合いで、企業におけるインターンシップの実施をうまく調整できなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

公的研究機関である理研や医薬基盤研と調整し、インターンシップを受け入れていただいた。学生アンケートの結果から判断して、当初の目的を達成できたと考えられる。